

2021年度

小規模多機能型居宅介護事業所いろり庵こぶし サービス評価

2021年度 小規模多機能型居宅介護事業所いろり庵こぶし「サービス評価」 総括表

法人名	宮城県高齢者生活協同組合	代表者	丹野 幸子	法人・事業所の特徴	元お鮎屋さんを改装した室内は、壁紙の和紙がほんのりとした温かみと明るさを醸し出し、笑顔こぼれる空間を作っています。そのなかで「暮らしたい場所でのいきいきとした生活を支え、おひとりおひとりの時間を大切にしたい介護をしたい」という思いで2017年に開所し5年になりました。
事業所名	いろり庵こぶし	管理者	小岩 眞理子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	4人	1人	1人	1人	人	2人	1人	11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<p>一人ひとりが情報を収集するという自覚を持ち、日々の関りを持ち、以前の暮らし方や利用者自身の「～したい」を再確認する。また、情報を細やかに記録し、曜日を決めて意見交換を実施する(第1・3火・日曜日の昼休み時間)</p> <p>ヒヤリハットは連絡ノートの後ろから記入し、すぐに見える化する。</p> <p>地域資源、人権、虐待、成年後見人制度を学習する機会を設ける。</p>	<p>iPad、連絡帳、スタッフ会議などで一人ひとりが自覚をもって情報収集することができた。</p> <p>ヒヤリハットも記載の仕方を変えたことで以前より記入されやすくなった。</p> <p>曜日、時間を決めた意見交換は実践できなかった。</p> <p>地域資源については、いろいろな場面を振り返り、改めて確認できた。</p> <p>成年後継人制度の学習はできなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が前向きに取り組んでいることが理解できた。 ・スタッフの皆さんが取り組んで切る姿は現れている。しかし、多忙な業務の中で、お互いに共有するタイミングが少ないようでフォローする事ができない状況が見える(スタッフ間の協働) ・常勤スタッフがわからず評価に迷った。 ・冷静な把握をされていると思われる。 ・工夫をして改善に取り組んでいる姿を感じる。 ・テーマによってはコロナもあり難しい。 ・具体的な改善計画だと思われる。 ・毎年の取り組みの内容が、スタッフ間の共有が出来ようになってきている様子を感じる。日々の多忙業務の中で一生懸命な姿を感じられました。 ・出来ている点、出来ていない点が具体的に把握されていて、 	<ul style="list-style-type: none"> ・iPadの増設 ・記録は、その方に関することはiPadに、連絡事項はノートに記載する。また、記録には出来事の他、「気持ち・考え」を入れる。ノートには提案や質問、賛否や回答なども記載する。 ・ライフサポートは前年度と同じ方を担当するが、二人一組で対応する。 ・スタッフ会議を有効に活用し情報交換する。 ・成年後見人制度の学習会を包括支援センターに協力いただきスタッフ会議で実践する。

			今回の改善計画に生かされている。	
B. 事業所のしつらえ・環境	運営推進委員の方々に利用者様や職員の様子を見ていただく機会を作る。 室内環境の改善について検討する。	今年度も新型コロナウイルス感染症予防のため直接みていただく機会は作れなかった。 室内環境の改善について検討し、内部の整理整頓、カウンターを折りたためるように改修し空間を広く使えるようにした。	・事業所を訪問させていただく機会がなかったので上記については把握できていない。	運営推進委員の方々に利用者様や職員の様子を見ていただく機会を作る。 行事の案内を出し、感染状況をみながら少人数で参加していただく。 室内環境の改善について検討する。
C. 事業所と地域のかかわり	こぶしだよりの発行 町内会の班長会議に参加する。 地域の行事、サロンに参加する。	こぶしだよりは年 3 回発行できた。 地域の行事にはコロナ禍であり参加できなかった。	・こぶしだよりの発行が実施された。 ・町内会班長会も年度はじめは開催されず出席の機会がなかった。 ・地域行事はほとんどが中止となった。 ・事業所の存在が地域に十分知られているとは言えない。コロナの拡大のタイミングが、本来であれば外種のイベントや地域会等でお伝えする機会を失っていることが大きいと思う。従って「こぶしだより」をできるだけ多くの回数を発行する等の工夫が必要と思う。	地域の相談機関のひとつとして利用いただけるように。 ・こぶしだよりの発行(年 3 回) 様子がわかるように集合写真を機会があるごとに撮っていく。 小規模多機能型居宅介護事業内容も掲載し制度について繰り返しお知らせしていく。 ・感染防止に努めながら、町内会の班長会議や地域の行事、サロンに参加する。 ・連合町内会に回覧の相談をする。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	利用者さんの希望に沿う外出の機会をつくる。 地域の行事(夏祭り、灯籠作り、など)、イベントに参加し、地域との交流を図る。	コロナ禍のため通院などの必要な外出以外は自粛し、たのしみな外出機会はほとんど作れなかった。代わりに季節感のある企画(夏祭り、クリスマス会など)を多く実施し楽しんでいただいた。	・残念ながら地域行事が中止となった為、参加の機会がほとんどなかった。 ・コロナ禍の中で地域との関りは少ないのが当然と考える。その中で工夫されている様子が見える。 ・朝の散歩で通りかかると花の手入れをされているので挨拶している。	感染防止に努めながら利用者さんの希望に沿う外出の機会をつくる。 地域の行事(夏祭り、灯籠作り、こいのぼり鑑賞など)、イベントに参加し、地域との交流を図る。

			<ul style="list-style-type: none"> ・評価が難しいと意思表示するしかなかった。 ・灯籠祭りは実施となり、それに関わったことは非常によかったと思われる。 ・コロナ禍で答えようがなかった。 ・とても大事な部分であり、今後のコロナ終息次第のところがある。 	
E. 運営推進会議を活かした取組み	前年度同様、会議では写真も使用しわかりやすく報告する。	少しでもこぶしの様子ができるよう写真を用意し報告できた。	<ul style="list-style-type: none"> ・とても充実した会議であったと思われる。 ・より具体的な問題点をあげてもらい、その解決の一助となればと思う。 	<p>写真を使ったわかりやすい報告をする。</p> <p>9月の運営推進会議では認知症についての学習会を企画する。</p>
F. 事業所の 防災・災害対策	運営推進委員の方に避難訓練に参加いただく。 地域の防災訓練には利用者さんと職員一緒に参加する	コロナ禍だったため避難訓練に参加要請はしなかった。 また、地域の防災訓練も縮小され参加できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・防災を真摯にとらえ、取り組んでいると思われる。 ・事業所の規模が小さいため、利用者とスタッフの安全を確保するのが第一であり、そのための対応、対策は行われている ・事業所の訓練には参加できなかった。また、地域の防災訓練は今年度限られたものとなった。 ・事業所の訓練を把握していない。 	<p>感染状況をみながら少人数で運営推進委員の方に避難訓練に参加いただく。</p> <p>地域の防災訓練には利用者さんと職員一緒に参加する</p>